

## 第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

### 報告書資料 支援 - 28

学校名・団体名	御船町立七滝中央小学校
HPアドレス	<a href="http://es.higo.ed.jp/nanataki-c/">http://es.higo.ed.jp/nanataki-c/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「地域とともにある学校づくり」の充実を 目指して
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校区は、豊かな自然、歴史的な史跡、伝統芸能などの教育資源に恵まれている地域であるが、過疎化・少子化により、地域人口は減少の一途をたどっている。さらに、平成28年熊本地震により、自宅等が被災した住民が多く、住み慣れた場所を離れ仮設住宅等から通学している児童が約2割いる。</p> <p>この震災をきっかけに、地域コミュニティの再構築の重要性を認識した住民が多く、地域活性化の中核としての役割が学校には期待されている。地域の将来を担う子どもたちに、地域への愛着や誇りをはぐくみ、地域住民とのつながりを深める取組を行う「地域とともにある学校」を推進・充実していくことは、地域の願いを実現するとともに本校の教育目標を達成できる意義ある研究であると考え、本研究に取り組むことにした。</p>	

## 【研究の内容】

研究主題：「地域とともにある学校づくり」の充実を目指して

### 1 研究の構想

#### (1) 主題設定の理由

家庭・地域の実態、児童の実態から、本校が果たすべき役割は、「校区の広がりによる地域とのつながりを一層深めること」「児童に地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材に育成すること」である。つまり、学校と地域の人々が目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりを目指して取組を推進することが必要であると考え、本主題を設定した。

### 2 研究の視点

#### (1) 視点1『組織の編成』

視点1は、学校と家庭・地域が学校の教育目標及び校長の経営方針、経営の具体的実践事項、児童及び学校の課題等の情報を共有し、ともに目標の達成や課題解決に向けて連携・協働して教育活動を進めることができる基盤としての組織を編成することである。

#### (2) 視点2『活動内容の「見える化」と校内研修の充実』

視点2は、学校と家庭・地域が、連携して取り組んでいる学習応援団の活動、体験活動、地域行事等の諸活動が、中心的な役割を果たしてきた教職員の異動や地域の担当者の交代等により、停滞したり、満足できる内容ではなかったりすることが起こらないように、活動内容の「見える化」を図ることである。また、熊本版コミュニティ・スクールに対する職員の関心や内容理解を促すことができるように、校内研修の充実を図ることである。

#### (3) 視点3『学校と家庭・地域の双方向の関係の強化』

視点3は、学習応援団、体験活動等の地域による学校教育への応援内容が充実するだけでなく、地域のお祭りや敬老会等に児童、職員が参加したり、お世話になった地域の方々を招待しての会食を行ったり、地域の方々の学校支援の様子を情報発信したりすることにより、学校と家庭・地域が双方向に支援し合う関係が築け、連携・協働がさらに促進されることである。

### 3 研究の実際

#### (1) 【視点1】組織の編成

##### ① 「魅力ある学校づくり協議会（年3回開催）」の再編成



【図① 魅力ある学校づくり協議会】

組織の再編成にあたって「構成メンバーの見直し」を行った。平成25年度に発足した「魅力ある学校づくり協議会」は主に学校評議員会の役割を果たしていた。そこで、委員の構成、人数を見直し、区長代表、学習応援団コーディネーター、PTA三役、地域連携担当を新たに委員に選定し、より実質的で活発な議論ができる会議にした。今後は「学校運営協議会」へと発展できるように体制づくりを進めている。〈図①〉

##### ② 「学習応援団（各地区年5回協力依頼）」の編成

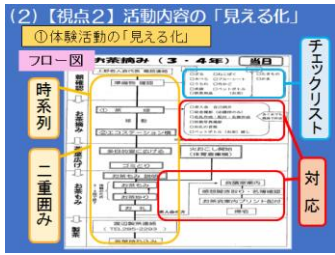


【図② 学習応援団の活動の様子】

学習応援団編成のねらいは3点ある、①地域人材の掘り起こし、②地域が身近に感じる学校づくり、③学校総体としての地域教育力の積極的な活用である。年間計画を作成しただけでは、地域教育力の積極的な活用は促進されない。学習応援団の組織を編成したことで、確実な人材の確保、学校教育活動への地域の理解・協力の推進、学校総体としての地域教育力の活用につながっている。〈図②〉

#### (2) 【視点2】活動内容の「見える化」

視点2では、誰が担任になっても活動ができるよう、体験活動の「見える化」による職員の共有化〈図③〉、校内研修の充実〈図④〉、職員現地学習〈図⑤〉による地域理解の取組を行った。



【図③ フロー図作成による「見える化」】

会議等	コミュニティ・スクール	学力充実
10 4	一日見学旅行	
10 11	各種体験活動フロー制作	事前研修(中) 下田・坂本
10 18	地域体験活動フロー制作	教員・下田
10 25		事前研修(中) 坂本
11 1	新人種別研修(全社)	座席
11 8	通知文・招待状作成	事前研修(中) 下田・坂本
11 15	魅力ある学校作り協議会について	教員・中野年福 下田
11 22		座席
11 29	評価検討	事前研修(中) 下田・坂本
12 6		座席
12 13	研修受講	論文発表 下田・坂本
12 20	人権勉強会とめ	座席
12 27	職員会議・他の教育現場参観	3学期の学習成果報告 教員・下田 行井
1 3	新学期開校	

【図④ 校内研修年間計画】

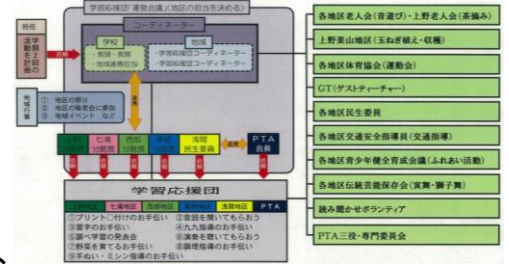


【図⑤ 職員の現地学習の様子】

(3) 【視点3】 学校と家庭・地域の双方向の関係の強化

① 学校への支援活動

家庭・地域から学校への支援活動の充実にあたっては、学校だけではなく、家庭・地域の方々々が活動への充実感を感じたり、児童とのつながりを深めたりすることが大切である。本校では、様々な団体と連携しながら、この活動の充実を図っている。〈図⑥〉地域の方々との「交流」を大切に学習を行ったことで、地域の方々の笑顔も増え、「楽しかった、また来るね」と児童から元気をもらい帰る姿が見られるようになっている。



【図⑥ 本校を応援する各種団体の組織図】

② 学校からのお返し・貢献活動

地域に支援してもらったばかりではなく、児童や職員も積極的に地域へ向け、地域の活性化に貢献するような双方向の関係を強化していくことが大切であると考え取組を行っている。

学校だより（コミュニティ・スクール通信）は、学校教育活動の地域や保護者への情報発信とお世話になった方へのお返しのために発行している。〈図⑦〉また、積極的に地域行事に参加し、児童が「太鼓」や「真舞」等の伝統芸能を披露している。〈図⑧・⑨〉



【図⑦ 学校だより】



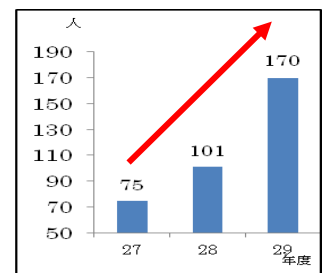
【図⑧ 七滝復興祭「太鼓」披露】



【図⑨ 東部地区敬老会】

4 研究の成果や児童への効果等

学校に支援していただいた地域の人数が、27年度に比べ2倍以上に増え、学校と家庭・地域の情報の共有が進んでいる。〈図⑩〉また、職員の熊本版コミュニティ・スクールに対する関心と理解が高まり、学習の中で地域の教育力の活用がしっかりと行われるようになってきている。さらに、地域の方からは、「子どもの元気な声を聞いて、私たちも元気になりました。」 「太鼓は素晴らしかった。とても好評だったので、来年もまた来てください。」などの声をいただき、児童や職員が地域へ出かけていくことの意義を感じるとともに、それが学校と家庭・地域との絆を深めることにつながっていると取組の効果を感じている。



【図⑩ 学校へ支援していただいた人数の変化（のべ人数）】

【研究期間：平成29年5月～平成30年3月】 視点1＝①、視点2＝②、視点3＝③

時期	内容	時期	内容
5月	①「学習応援団」運営会議 ②研究板説、視点の設定 ③茶摘み・いも苗植え等	11月	①「魅力ある学校づくり協議会」 ②研究論文の作成 ③いもの収穫、昔遊び
6月	①「魅力ある学校づくり協議会」 ②フロー図作り ③田植え、お茶会等	12月	②研究論文の作成 ③
7月	②部会研修 ③宮部兄弟顕彰会参加、学習応援団（1学期に各学年2回実施）	1月	①「学習応援団」運営会議 ②研究発表会準備 ③
8月	①「学習応援団」運営会議 ②地域現地学習 ③ふれあい夏祭り参加	2月	①「魅力ある学校づくり協議会」 ②研究発表会実施 ③学習応援団（3学期1回）
9月	②地域行事、地域体験活動についてフロー図作成 ③地域総出の運動会	3月	②研究のまとめ ③お世話になった地域の方へのお返し（お礼）の会
10月	②研究発表会関係 ③地域の秋祭りでの伝統芸能披露、福刈り		